

とらすととれいん

No.83 1996

OCTOBER

『あっ!ヘッドマークがない!!』



10月5日のトラストトレインはヘッドマークなしで運転!!
今回は取り付けステーまで取り外し!!
沿線ファンの反応やいかに?

9・10月のボランティア参加者からのひとこと

前から参加したかったが、ようやく参加でき、歴史的な客車に來られてよかった。
(野田さん)

本で活動を知って参加しました。貴重な体験でした。
(柳原さん・母娘で参加)

自分で磨いた客車に乗りこようという活動に参加できよかった。
(磯山さん)

自然のなかに久しぶりに來れてよかったと思う
(初参加の山崎さん)

カーテンの惨状を目の当たりにして、これではいけないと思った。
(初参加の須田さん)

へんです 皆さん
(初参加の尾崎さん)

9月14日の運行状況

ボランティア 21名

乗客数 下り 169名

上り 57名

10月5日の運行状況

ボランティア 17名

乗客数 下り 126名

上り 36名

祝・トラストトレイン 10周年

白井 昭

トラストトレインのボランティアが増加中とのことで、お喜び申し上げます。

大井川鉄道へのお客様を見ても、始めは乗るだけだったのが最近では車両基地へ来てSLの仕立てを見たり写真をとったりしてから、更にSLへ触れたいという人が増えております。そのメンバーを見ても今は家族づれの人がどんどん増えており、いずれ基地を公開しなければとも考えています。

一方マスコミの動きを観察してみると、動態保存時代は関心が少なく、昭和45年のB6の到着も本当はビッグニュースなのに殆ん

ど報道されませんでした。SLの全線運転当初は見た目のよいSLの走りへ競争で群がり、次いで機関士、助士の特訓ものに群がり、今は手作りブームのせいかメタルの加工、ロッド入れ、など整備保修作業に集中し、一部はお断りする有様です。

大井川鉄道のSL動態保存は今年26年を迎えるのですが、この間の時代による変化をとらえ、今後のトレンドを考えると興味深いものがあります。

ここでトラストのボランティアについて考えると、一気に過熱管の加修とかステイの取り替えなど欧

米なみのことはムリだと思いますので、当面洗缶やボイラ内の清掃などから始めたらと思います。SLの外を磨いてもあまり寿命の延長には役立たないが、内部の手入れは自己満足ではない本当の仕事であり、実際にSLを守るのに役立ちます。

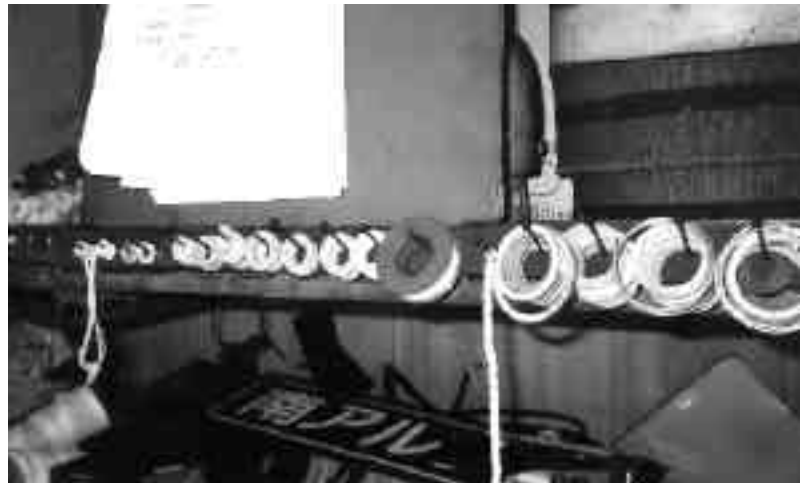
キャンペーンのほうは少し進んだようなので、実質的な次の一歩を考えることを提案します。もちろんこの実現はそう簡単には行きませんが、進歩へ向けて努力していくことは大切であり、研究と実現を期待します。



SLを守る
加修を待つ過熱管



動軸メタルの加修(きさげ)



色々なサイズ、種類のパッキングもSLを守る生命線です



特種工具の色々
SLはこれらに支えられて保存されています

石炭列車の思い出

室蘭本線5290列車

伊藤栄一

昭和49年12月、私はS-L撮影のため北海道を訪ね、室蘭本線栗丘駅へ寄った。栗丘、栗山間には緩やかな勾配があり、当時の室蘭本線にはD51牽引の貨物列車が多数あり、C57牽引の鈍行もあって私はS-Lを撮りまくった。しかし、風景はいま一つであった。

さて、本日最後の被写体、貨物5290列車。栗丘通過時刻は15時17分。D51牽引の列車であった。私は直線区間の線路ぎわに三脚を立て、借り物の広角レンズを付けたカメラをのせて5290列車を待った。やがて栗丘通過の汽笛が聞こえ、遠くに煙が見えた。5290列車の煙だ。

D51は遠くのカーブ区間に姿をあらわし、煙をふき上げながら直線区間に入った。そしてプラスチックの音を響かせながら一歩ずつ大地を踏みしめるようにゆっくり近づいて来た。私はファインダー内でD51を引きつけ、シャッターを押した。D51の後には、道外禁止の石炭車が続いた。ボギー台車をはいた大型の石炭車で編成を組んだ石炭列車だった。石炭車はいかにも重そうなレールジョイント音を響かせながら通過して行った。数を数えたら30数両あった。やがて車掌車が私の横を通過すると、D51は汽笛を残してトンネルに消えて行った。石炭の香りがしばらく残った。私は満足して栗丘駅に戻った。

駅の待合室の石炭ストーブの火が消えており、寒かった。駅員いわく、あんちゃんD51の力をたきたいだろうけど、このストーブでがまんしてくれないか？」と。私は機関助手の気分を味わいながら、「ストーブに石炭をくべた。北国の夕暮れは早く、待合室があたりたまる頃には夜になっていた。



鉄道サークル 総会のご案内 鉄道サークル総会実行委員会

鉄道サークルの平成8年度の総会を下記の日程で行うことになりましたので、お知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時およびスケジュール

11月2日

12:30 奈良・名勝大乗院庭園文化館に集合(奈良市高畑町御所馬場、奈良ホテル南側に所在。JR奈良駅より徒歩20分、近鉄奈良駅より徒歩15分。奈良交通バス、市内循環バスも運行あり)

13:00～15:00 小池滋先生講演

15:00～15:15 休憩

15:15～17:00 フリートーク

17:00 初日終了

ご希望の方は敷地内の宿泊施設に宿泊することができます。(詳細は次項にて)

11月3日

10:00～12:00 共永興業株式会社大阪本社SL展示館を見学。

本来日曜日は休館日ですが、今回特別に見学させていただけることになりました。

(大阪市西区九条南3-20-10 地下鉄九条駅下車 徒歩5分)

徒歩にて交通科学博物館に移動。

13:00～15:00 交通科学博物館内会議室にて、総会開始(大阪市港区波除3丁目 JR大阪環状線弁天町駅下車)

<内容>

議長選出・前日のフリートークのまとめ・会計報告・審議事項・閉会

主な審議事項(予定)

- 1.トラストレインの諸問題(ヨ5000の活用を中心に)
- 2.サークルの活性化の為に何をなすべきか(新会員の募集と地方在住会員との連絡)
- 3.会報・会費その他の運営に関する問題

参加される方へ

進行の都合上、参加される方は下記までご連絡をお願いいたします。

黄 葆生 電話 06-252-5171(月～金10:00～17:00) ファクス06-252-5705(24時間受付)

連絡していただかなければいけない事項

- ・参加者氏名(家族などが参加される場合はその人数)
- ・どの時点から参加するか
- ・JR保養所大乗苑宿泊を希望される場合はその旨(宿泊の場合、1人1泊2食+ で9000円程度)

おことわり

準備の都合で皆様へのご連絡が遅くなってしまったことをお詫びいたします。

なお、大乗苑宿泊については人数に限りがありますので、ご希望に沿いかねる場合もあるかもしれませんが、予めご了承ください。

いんぷおめいしよん

分科会の中止について

7月に総会のご案内と共に提案いたしました分科会ですが、

- ・ 参画頂けた人数が予想より少なかった
- ・ 提案が急であった
- ・ 皆様に対する説明が不十分であった

以上の事により中止する事と致しました。

折角ご参画頂いた方々、会員の皆様にお詫び致します。

海老原英治

編集後記

最近、サークルの居心地が何だか悪くなっています。

このあいだ送られてきた総会と分科会の案内にしても、会報担当者が何も知らないうちに、あのような内容の物が作られてしまいました。私はあの封筒に貼ってあった宛名ラベルは出力しましたが、単に総会の案内の発送に使うためと思いついた物です。

分科会にしても、そりゃその時の例会に参加していた数人の人は何も言わなかったかも知れないけど、ああ書かれると関東・関西の大部分の人が賛成したもんだと他の地域の人は思うのではないのでしょうか。やるならやるでいいのですが、ああいうことをやりたいなら、総

会に諮ってからやるもんじゃないでしょうか。ナンでもカンでも独断で決められては困ります。別に分科会の内容が悪くてみんなが反対しているのではなく、そこまでのプロセスが悪いと言っているのです。

それに分科会に属しないと取り残されてしまうような印象もあり、寂しい感じです。「みんな楽しく」が合い言葉の鉄道サークルが、なんだか堅苦しい存在に思えてきます。

総会実行委員会にしても、名を連ねた2人は分科会中止決定後はあまり動いていないようで、その他の人がしりぬぐいに翻弄されている始末です。

財団に対しても、ほとんど連絡を入れず(かなり前から私やその他の人が忠告しているにもかかわらず)いったい何を

やっているのか、担当者でさえ把握できていない状況です。

会報の原稿についても、財団事務局宛ではなくサークル事務局宛に手書きで来ていた原稿を、ワープロで打ち直してくれるのはいいのですが、内容に関してまでも手を加え、著者の書いたものとは違うものになっていった(著者の意図する内容では無くなっていた)ことも発覚しています。

こんな状況では会報の製作をする気力など無くなってしまいます。忙しくたって、やる気があれば会報は作れます。という訳で現状のままサークルが流れていくのであれば、しばらく私もサークル活動を休止(つまり会報の製作も中止)させて戴きたいと考えております。 田中光一